

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 6 月 10 日現在

機関番号：33918

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18H00953

研究課題名(和文)統合データに基づく高齢者への社会的孤立軽減にむけた地域福祉実践のプログラム評価

研究課題名(英文) Program evaluation study using integrated database about community welfare activities aimed at reducing social isolation among older adults

研究代表者

斉藤 雅茂 (Saito, Masashige)

日本福祉大学・社会福祉学部・准教授

研究者番号：70548768

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,800,000円

研究成果の概要(和文)：高齢者の社会的孤立・孤独の軽減にむけた地域福祉活動として、地方都市におけるポイント制による高齢者の社会参加促進事業、大都市における高齢者の地域支え合い事業、集合住宅における「通いの場」事業に着目し、多時点パネルデータと実践記録(利用者名簿等)と要介護認定・介護保険賦課情報を統合したデータベースを構築した。ポイント制事業の参加群ではその後、友人との交流等が有意に上昇し、利用者としてよりもボランティアとして参加している高齢者の方がより保護的な関連を示すことなどが確認された。また、インパクト評価として、趣味・スポーツの会、ボランティア活動等への参加を通じた高齢者の健康維持等にもたらす効果を検証した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

地域福祉実践におけるプログラム評価の重要性は古くから指摘されてきたが、解析に耐えられる質の高いデータの蓄積という点でも、実務的な利活用という点でも課題が多い。本研究では、実践の中で蓄積される利用者名簿、多時点の質問紙調査データ(パネルデータ)、行政が保有する介護給付情報等を統合した大規模データベースを構築した。対照群を設けた研究デザインに基づいて、高齢者への社会参加促進や生活支援がどのような人々に届いているのか、地域福祉活動の推進による高齢者の社会関係構築への効果、介護予防・認知症予防等にもたらす効果といったプロセスからアウトカム、インパクトまでの評価を試みる研究事例を提示することができた。

研究成果の概要(英文)：As community welfare activities aimed at reducing social isolation and loneliness among older adults, we focused on three activities: (1) point card system for promotion of social participation in local area, (2) community mutual support program for older adults in urban area, (3) community gatherings program for older adults lived in a housing complex. We constructed a database integrating longitudinal survey (panel) data for older adults, practice records about program participants and service users, and public record on long-term care (LTC) insurance benefits. As a result, we confirmed that the participation group in point card system for promotion of social participation showed a significantly increase in interaction with friends, and the people who participated as volunteers rather than as service users showed more protective. Concerning the impact evaluation, we examined the health maintenance effects of participation in hobbies, sports groups and volunteer activities.

研究分野：社会福祉

キーワード：地域福祉 社会的孤立・孤独の軽減 プログラム評価 高齢者福祉

1. 研究開始当初の背景

エビデンスに基づく実践が提唱されて以降、地域福祉実践に関するプログラム評価の必要性は様々に指摘されてきたが、質の高いデータの蓄積という点でも、その利活用の方法という点でも未だに課題が多く、学術的な研究事例の蓄積は極めて乏しい状況にある。認定上級社会福祉士カリキュラムには「サービス評価の方法」が必須化されているが、未だにニーズ把握や効果評価に対する理解が不十分であり（総務省 2013）、社会福祉(学)におけるプログラム評価に対する取り組みの遅れが目立っている（平岡 2013）、サービス評価に関する研究はさらなる進展が望まれる（中野 2014）とも指摘されている。厚生労働省は2017年1月に「健康・医療・介護の総合的な保健医療データプラットフォームの構築」を掲げており、専門家の意見や先進事例の紹介だけでなく、ビッグデータに基づく評価研究は時代の要請に応える新たな実践的・実証的な研究課題といえる。

とりわけ、高齢者の社会的孤立や孤立死・孤独死への関心が高まるなかで、その予防・軽減に向けた取り組み（地域介入）が様々に進められ、2015年度から始まった新しい介護予防・日常生活支援総合事業でも、高齢者の社会参加や地域での支え合いの促進が試みられている。地域福祉活動の推進によって高齢者の社会的孤立や孤独感が予防・軽減され、健康の社会的決定要因という点から介護予防や認知症予防、健康寿命の延伸といった効果も期待されている。しかし、実際にこれらの地域介入によってそれらの効果がどの程度、期待できるのかは未だ定かではない。また、これまでの多くの実践研究では、未利用者ないし非参加者といった対照群を設けた研究デザインになっていないために、利用満足度の評価などに留まり、当該事業の効果の有無まで検証できずにいる。また、統計的な検出力を考慮すると、一つの実践だけでなく、類似・関連する複数のプログラムに着目し、同一のフレームワークで評価することが有効である。

2. 研究の目的

本研究では、実験デザインに基づいて高齢者の社会的孤立・孤独軽減にむけた地域福祉実践（地域介入）のプロセス・アウトカム・インパクト評価を試みた。具体的には、地方都市におけるポイント制による高齢者の社会参加促進事業、大都市における高齢者の地域支え合い事業、高齢化率の高い集合住宅における「通いの場」事業という3つのフィールドを対象にして、以下の3点に取り組んだ。

- ①地域介入のプロセス評価として、過去に実施された高齢者への大規模調査（JAGES（日本老年学的評価研究）プロジェクト）と連携し、各事業の参加者・利用者名簿と統合させたデータセットを整備し、各事業の参加者・利用者の特性を明らかにする。
- ②地域介入の効果評価として、質問紙による追跡調査（パネル調査）を実施し、諸属性の影響を考慮した上で参加群と非参加群間の社会関係や孤独感等の変化（アウトカム）を評価する。加えて、その後の要介護認定や認知症を伴う要介護、死亡などの転帰を追跡し、地域介入の推進による健康寿命延伸の効果（インパクト）を明らかにする。
- ③解析結果を各実践現場にフィードバックするとともに、他地域でも応用可能な形になるように、データに基づいた地域福祉実践プログラム評価の理論構築とその手順（プロトコル）を整理する。

3. 研究の方法

ポイント制による高齢者の社会参加促進事業については愛知県常滑市、大都市における地域住民による地域支え合い事業については愛知県名古屋市、また、都市でも局地的に「限界集落化」が進んでいる団地における「通いの場」事業については名古屋市緑区の鳴子団地を対象にした。

常滑市および名古屋市では、それぞれ当該事業が開始する直前にあたる2016年にJAGESプロジェクトと連携した質問紙調査、鳴子団地でも同年にほぼ同一の調査票を用いた調査をベースラインとした。なお、常滑市については悉皆調査であるため、参加者名簿と突合することで本事業への参加群と対照群を区別した。名古屋市は、約1/20抽出の標本調査であるため、2017年度中に当該事業の担い手(参加者)と受け手(利用者)への調査を実施し、上記の標本調査回答者を対照群とした。

2019年度(2年目)に追跡調査(パネル調査)を実施し、事業参加/非参加および生活支援利用/未利用による3年後の状態像の変化を解析した。主な指標には社会的ネットワークの規模と頻度、ソーシャルサポート、外出頻度、笑いの頻度、孤独感、抑うつ傾向などを測定した。並行して、政策的なインパクト評価として、2020年度(3年目)に介護保険の認定・賦課データに基づいて約4年間の転帰(要支援を含む要介護認定の発生、健康寿命の指標でもある要介護2以上の発生、認知症を伴う要介護認定の発生、総死亡)を追跡し、事業参加・利用が高齢者の健康維持にもたらした効果を検証した。

考慮すべき交絡要因は多数存在するが、事業の性質上、本研究ではランダム化比較試験は行っていない。その代替として、データ解析に際しては、傾向スコアを用いた逆数重みづけ推定(IPW)法を採用し、データの欠損に対しては多重代入法を用いて可能な限りで補完し、推計のバイアスを最小にする試みを行った。

4. 研究成果

愛知県常滑市では、初年度から進めているスマイルポイント事業について、QRコードデータに基づく参加者把握を試みた。2019年12月末時点で実人数821名(延べ9290件)の情報が収集され、QRコード拠点参加者821名、非参加者6907名との比較が可能なデータベースが整備された。この3年間で参加者数は増加し、参加群では友人との交流や地域活動への参加が有意に上昇していること、全体的にはサロン活動よりも地域介護予防教室の方が、利用者としてよりもボランティアとして参加している高齢者の方が社会関係に保護的な関連を示していることなどが確認された。また、3年間の要介護発生リスクについても参加群で低い傾向にあった。愛知県名古屋市での支え合い事業については、追跡調査のサンプル数が小さくなったこともあり、2年後の追跡調査において健康指標の改善は認められなかったが、サロン参加者でソーシャルキャピタルが豊かになっていることがうかがえた。また、直接会う機会がなくても、手紙や電話でのやり取りによる地域のつながりが増えていることが確認できた。今後は2019年追跡調査に参加していない住民の健康状態を踏まえた分析(参加していない住民と参加している住民の比較)が必要である。名古屋市緑区・鳴子団地では、通いの場参加群では困りごとを相談できる相手がいない人が減少傾向にあり、社会関係醸成に有効な可能性があることが示唆された。統計学的に有意ではなかったが、3年間の要介護発生リスクは通いの場参加群でやや低い傾向にあることも確認された。

目的として掲げた3点については、以下の通り報告する。

- ①地域介入のプロセス評価に関しては、ポイント制による高齢者の社会参加促進事業については参加者は増加傾向にあり、参加の種類が多様化していること、基本属性においては非参加群との有意な差は認められず、もともと地域活動に参加していなかった層の参加が促されている可能性があること、などが確認された。
- ②地域介入の効果評価に関しては、たとえば、ポイント制による高齢者の社会参加促進事業においては参加群でその後、友人との交流や地域活動への参加が有意に上昇していた。全体的にはサロン活動よりも地域介護予防教室の方が、また、利用者としてよりもボランティアとして参加している高齢者の方が社会関係に保護的な関連を示していた。「通いの場」事業においても社会関係醸成に有効な可能性があることが示されていた。また、両事業ともに健康指標へのインパクト評価に関しては、追跡期間の短さから統計学的に有意な関連は確認されなかったが、概ね保護的な影響をもたらしていることを示唆する結果が得られた。
- ③上記の通り、ポイント制による高齢者の社会参加促進事業、大都市における地域住民による地域支え合い事業、都市でも局地的に高齢化が進んでいる集合住宅における「通いの場」事業について、事業参加／非参加および生活支援利用／未利用による 3 年間後の状態像の変化を追跡することができた。今後、上記結果の論文化を進めていくとともに、データに基づいた地域福祉実践プログラム評価の理論構築とその手順書（プロトコル）の整理を目指す。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計22件（うち査読付論文 14件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 11件）

1. 著者名 Hiroshi Hirai, Masashige Saito, Naoki Kondo, Katsunori Kondo, Toshiyuki Ojima	4. 巻 18(9)
2. 論文標題 Physical activity and cumulative long-term care cost among older Japanese adults: A prospective study in JAGES	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The International Journal of Environmental Research and Public Health.	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijerph18095004	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Tsuji Taishi, Kanamori Satoru, Watanabe Ryota, Yokoyama Meiko, Miyaguni Yasuhiro, Saito Masashige, Kondo Katsunori	4. 巻 in press
2. 論文標題 Watching sports and depressive symptoms among older adults: A cross-sectional study from the JAGES 2019 survey	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 福定正城, 斉藤雅茂	4. 巻 印刷中
2. 論文標題 世帯の社会的脆弱性尺度の開発および信頼性・妥当性の検討	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 厚生指標	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 阿部紀之, 辻大士, 井手一茂, 渡邊良太, 斉藤雅茂, 近藤克則	4. 巻 58(1)
2. 論文標題 社会的フレイルの指標に関する文献レビューと内容的妥当性の検証	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本老年医学会雑誌	6. 最初と最後の頁 24-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tamada Yudai, Takeuchi Kenji, Yamaguchi Chikae, Saito Masashige, Ohira Tetsuya, Shirai Kokoro, Kawachi Ichiro, Kondo Katsunori	4. 巻 -
2. 論文標題 Does laughter predict onset of functional disability and mortality among older Japanese adults? the JAGES prospective cohort study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Epidemiology	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2188/jea.JE20200051	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 西岡大輔, 上野恵子, 舟越光彦, 斉藤雅茂, 近藤尚己	4. 巻 67 (7)
2. 論文標題 医療機関で用いる患者の生活困窮評価尺度の開発	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本公衆衛生雑誌	6. 最初と最後の頁 461-470
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 斉藤雅茂	4. 巻 -
2. 論文標題 社会的孤立の状態にある人の特徴とケアマネジメント	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本ケアマネジメント学会『ケアマネジメント事典』中央法規出版	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 斉藤雅茂	4. 巻 -
2. 論文標題 社会的孤立とソーシャルサポート	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 山田壮志郎編著『ホームレス経験者が地域で定着できる条件は何か; パネル調査からみた生活困窮者支援の課題』ミネルヴァ書房	6. 最初と最後の頁 189-204
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 斉藤雅茂	4. 巻 -
2. 論文標題 地域単位の指標開発の試み	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 近藤克則編『ソーシャル・キャピタルと健康・福祉（叢書ソーシャル・キャピタル6）』ミネルヴァ書房	6. 最初と最後の頁 14-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Saito Masashige	4. 巻 -
2. 論文標題 Healthy aging: IADL and functional disability	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Kondo Katsunori (ed) Social Determinants of Health in Non-communicable Diseases, Springer	6. 最初と最後の頁 169-182
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/978-981-15-1831-7	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Tsuji Taishi, Kanamori Satoru, Saito Masashige, Watanabe Ryota, Miyaguni Yasuhiro, Kondo Katsunori	4. 巻 38(4)
2. 論文標題 Specific types of sports and exercise group participation and health in older people	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Sports Sciences	6. 最初と最後の頁 442-429
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/02640414.2019.1705541	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Noguchi Taiji, Kondo Katsunori, Saito Masashige, Nakagawa-Senda Hiroko, Suzuki Sadao	4. 巻 9(10)
2. 論文標題 Community social capital and the onset of functional disability among older adults in Japan: A multilevel longitudinal study using Japan Gerontological Evaluation Study (JAGES) data	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 BMJ Open	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1136/bmjopen-2019-029279.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 斉藤雅茂	4. 巻 64
2. 論文標題 〔特集：分譲マンションにおける認知症高齢者等の課題に関する多角的な研究〕認知症の人と家族にやさしいマンションにむけた諸課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 マンション学（日本マンション学会）	6. 最初と最後の頁 92-96
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 斉藤雅茂	4. 巻 136
2. 論文標題 〔特集：単身化する社会と社会福祉〕単身高齢者への社会的孤立軽減にむけた介入研究の動向と課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 社会福祉研究（鉄道弘済会）	6. 最初と最後の頁 48-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 斎藤民，近藤尚己	4. 巻 75(10)
2. 論文標題 高齢化する大規模団地での保健活動；そのチャンスと課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 保健師ジャーナル	6. 最初と最後の頁 816-821
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11477/mf.1664201280	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 斉藤雅茂	4. 巻 -
2. 論文標題 市区町村担当職員向け研修会の内容例」「住民向け研修会の内容例」「ボランティア候補者向けワークショップの内容例	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 近藤克則編著『住民主体の楽しい通いの場づくり；地域づくりによる介護予防進め方ガイド』	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Saito Masashige, Kondo Naoki, Oshio Takashi, Tabuchi Takahiro, Kondo Katsunori	4. 巻 16(2)
2. 論文標題 Relative deprivation, poverty, and mortality in Japanese older adults: a six-year follow-up of the JAGES cohort survey	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The International Journal of Environmental Research and Public Health	6. 最初と最後の頁 182
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijerph16020182	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Saito Masashige, Aida Jun, Kondo Naoki, Saito Junko, Kato Hirota, Ota Yasuhiro, Amemiya Airi, Kondo Katsunori	4. 巻 9(3)
2. 論文標題 Reduced long-term care cost by social participation among older Japanese adult: A eleven-year follow-up study in JAGES	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 BMJ Open	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1136/bmjopen-2018-024439	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Amemiya Airi, Saito Junko, Saito Masashige, Takagi Daisuke, Haseda Maho, Tani Yukako, Kondo Katsunori, Kondo Naoki	4. 巻 16(8)
2. 論文標題 Social capital and the improvement in functional ability among older people in Japan: A multilevel survival analysis using JAGES data.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The International Journal of Environmental Research and Public Health	6. 最初と最後の頁 1310
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijerph16081310	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Fujihara Satoko, Tsuji Taishi, Miyaguni Yasuhiro, Aida Jun, Saito Masashige, Koyama Shihoko, Kondo Katsunori	4. 巻 16(5)
2. 論文標題 Community-level social capital and newly decline of IADL in Japanese older individuals	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The International Journal of Environmental Research and Public Health	6. 最初と最後の頁 828
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijerph16050828	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yamaguchi Miwa, Inoue Yosuke, Shinozaki Tomohiro, Saito Masashige, Takagi Daisuke, Kondo Katsunori, Kondo Naoki	4. 巻 -
2. 論文標題 Community social capital and depressive symptoms among older people in Japan: A multilevel longitudinal study	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Epidemiology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2188/jea.JE20180078	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Saito Junko, Kondo Naoki, Saito Masashige, Takagi Daisuke, Tabuchi Takahiro, Kondo Katsunori, Haseda Maho, Tani Yukako	4. 巻 29(2)
2. 論文標題 Exploring 2.5-year trajectories of functional decline in older adults by applying a growth mixture model and the frequency of outings as a predictor: 2010-2013 JAGES longitudinal study	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Epidemiology	6. 最初と最後の頁 65-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2188/jea.JE20170230	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計16件(うち招待講演 0件/うち国際学会 1件)

1. 発表者名 斉藤雅茂, 藤田欽也, 近藤尚己, 近藤克則
2. 発表標題 高齢者の社会参加頻度によるその後の介護費用の相違; 複数自治体6年間の介護レセプトに基づく再検証
3. 学会等名 第62回日本老年社会科学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 宮國康弘, 斉藤雅茂, 辻大士, 近藤尚己, 近藤克則
2. 発表標題 地域レベルの社会参加と介護給付費との関連: JAGES縦断データによるマルチレベル分析
3. 学会等名 第79回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 野口泰司・村田千代栄・斎藤民・斉藤雅茂・林尊弘・渡邊良太・小嶋雅代・近藤克則
2. 発表標題 地域のソーシャル・キャピタルとフレイル発生との関連：JAGES縦断研究
3. 学会等名 第30回日本疫学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 平井寛・竹田徳則・斉藤雅茂・尾島俊之・相田潤・近藤尚己
2. 発表標題 アクセシビリティに着目した地域サロン参加者の特徴
3. 学会等名 第30回日本疫学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 阿部紀之・辻大士・井手一茂・渡邊良太・斉藤雅茂・近藤克則
2. 発表標題 社会的フレイルの指標に関する文献レビューと内容的妥当性の検証
3. 学会等名 第30回日本疫学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 斉藤雅茂
2. 発表標題 愛知県常滑市でのポイント制社会参加促進事業の効果評価
3. 学会等名 第78回日本公衆衛生学会総会（シンポジウム：自治体・住民と取り組む地域参加型研究（CBPR））
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋聡・香田将英・斉藤雅茂・近藤克則
2. 発表標題 高齢者のうつ指標と自殺の関連性における再現性検証；JAGESの3時点繰返し横断分析から
3. 学会等名 第78回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 尾島俊之・平井寛・中川雅貴・相田潤・斉藤雅茂・近藤克則
2. 発表標題 コンパクトシティの検討のための市町村内転居に関する研究
3. 学会等名 第78回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 斎藤民・村田千代栄・斉藤雅茂・近藤克則
2. 発表標題 高齢者の受授力とその関連要因；困りごと相談相手に基づく類型化とその特徴
3. 学会等名 第61回日本老年社会科学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 斉藤雅茂・宮國康弘・近藤克則
2. 発表標題 ポイント制の社会参加促進プログラムが高齢者の社会関係にもたらす効果；1年後のフォローアップ調査より
3. 学会等名 日本社会福祉学会第66回秋季大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 斉藤雅茂・近藤尚己・小塩隆士・田淵貴大・近藤克則
2. 発表標題 物的・環境的な生活様式の貧しさ（相対的剥奪）と死亡との関連；JAGES 6年コホート研究より
3. 学会等名 第60回日本老年社会科学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 斉藤雅茂・近藤尚己・尾島俊之・相田潤・近藤克則
2. 発表標題 地域単位の健康関連ソーシャル・キャピタル指標の外的妥当性；二時点の大規模調査データより
3. 学会等名 第28回日本疫学会学術総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 近藤克則・尾島俊之・相田潤・近藤尚己・斉藤雅茂
2. 発表標題 日本老年学的評価研究(JAGES)の概要と7つの重要要素
3. 学会等名 日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 尾島俊之・堀井聡子・横山由香里・相田潤・平井寛・斉藤雅茂・近藤克則
2. 発表標題 認知症サポーター養成講座と高齢者の社会的包摂の関連
3. 学会等名 日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Abbas Hazem, Aida Jun, Saito Masashige, Kondo Katsunori, Tsakos Georgios, Watt G Richard, Osaka Ken
2. 発表標題 Social Inequalities in Dental Implant Use Among Older Japanese
3. 学会等名 International association for dental research. (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ojima Toshiyuki, Hosokawa Rikuya, Horii Satoko, Yokoyama Yukari, Aida Jun, Saito Masashige, Kondo Naoki, Kondo Katsunori Kondo
2. 発表標題 Life Expectancy without Institutionalization as an Operational Measurement of Age and Dementia Friendly Communities
3. 学会等名 REVES@30 Past, Present, and Future Trends in Population Health
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 斉藤雅茂	4. 発行年 2018年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 232
3. 書名 高齢期の社会的孤立と地域福祉；計量的アプローチによる測定・評価・予防策	

1. 著者名 斉藤雅茂	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 -
3. 書名 ソーシャル・キャピタルと健康・福祉（叢書ソーシャル・キャピタル6）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	近藤 克則 (Kondo Katsunori) (20298558)	千葉大学・予防医学センター・教授 (12501)	
研究分担者	村田 千代栄 (Murata Chiyoe) (40402250)	東海学園大学・健康栄養学部・教授 (33929)	
研究分担者	横山 由香里 (Yokoyama Yukari) (40632633)	日本福祉大学・社会福祉学部・准教授 (33918)	
研究分担者	斎藤 民 (Saito Tami) (80323608)	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター・老年学・社会科学研究所センター・部長 (83903)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関